店名にもある **酔仙** をご存知ですか？

ー酔うて仙境に入るが如しー

一杯のお酒の向こうには、長い歴史と人々の想いがあります。

酔仙のはじまり

昭和19年（1944年）太平洋戦争により、
酒造りに必要なお米の配給ができない時代。
政府の企業統制令により、地域の酒蔵が
まとまることで配給が許されることとなり、
旧気仙郡（大船渡市、陸前高田市、気仙郡住田町）の8軒の酒蔵がひとつとなり、
「気仙酒造」が誕生しました。

地元出身の日本画家・佐藤華岳斎（かがくさい）は
この地酒をこよなく愛し、「気仙」の名では
地域の酒に留まると危惧していました。

そして「酔うて仙境に入るが如し」と讃え、
銘柄名「気仙」を「酔仙」に改めるよう薦め、
自ら筆をとって水仙の花をあしらった
レッテルを贈りました。



震災と再建

「酔仙、ここにあり。」

2011年3月11日、東日本大震災。
津波により、陸前高田の酒蔵は全壊しました。

その瓦礫と化した酒蔵の中で、
鉄骨の高い場所に残っていたのが、
酔仙の四斗樽でした。

まるで、「酔仙、ここにあり」と
告げているかのように。

その姿を伝えた新聞には、
「絶対再建できる」
という言葉が添えられました。

その後、酔仙は酒造りを再開。
今日までその歴史は受け継がれています。



北勝IIと酔仙

私たち北勝IIも、
昨年若いスタッフとともに
岩手県の酔仙酒造を訪ね、
ご挨拶をさせていただきました。

店名にも掲げている「酔仙」
その一杯には、80年以上の歴史と、
酒造りを守り続けてきた
人々の想いがあります。

**ぜひ、その物語とともに
酔仙をお楽しみください。**



二〇二六年　九月
岩手県大船渡市に
新設された蔵元

酔仙酒蔵 **北勝II**

長い歴史と人々の想いが詰まった酔仙をお楽しみください。